

記録
フィルム
カラー／34分

■企画・監修
日本芸術文化振興会
国立劇場

スタッフ

■製作
村山和雄
■脚本・演出
原村政樹
■撮影
江連高元 村山和雄
山屋恵司
■撮影助手
田中龍男 服部 浩
森 英男 藤江 潔
善本哲郎 秋葉清助
■照明
本橋俊男
■録音
堀内戦治
■編集
吉田栄子
■ネガ編集 加納宗子
■現像
ソニーPCL
■解説
小川真司

■主な出演者(五十音順)
市川團十郎
市川團蔵
尾上菊五郎
尾上菊十郎
尾上辰之助
尾上松助
中村雀右衛門
中村富十郎
中村福助
中村松江
坂東八十助

■演目
義経千本桜(伏見稲
荷鳥居前の場／大物
浦の場／小金吾討死
の場／河連法眼館の
場)

文部省選定

「タテ」(殺陣)とも呼ばれる歌舞伎の立廻(たちまわ)りは、血なまぐさい闘争場面をとんぼや見得などを織り込んで美しく展開する、一つの見せ場になっている。その華麗な演技によって、主役の華やしさが一層引き立てられるのである。立廻りの演出に見られる歌舞伎独特の美意識を、歌舞伎にあまり接したことのない人たちにも味わってもらえるよう、義太夫狂言の三大名作の一つ『義経千本桜』の舞台から立廻りの名場面を中心に紹介する。



まず、舞台稽古の様子を見てみよう。立廻りの稽古は、タテ師を中心に進められる。公演台本には「立廻りよろしく有りて」とのみ記されているが、数多くの立廻りの型を使いこなし、長丁場の立廻りの演出構成を工夫するのが、タテ師の腕の見せどころである。

タテ師の尾上菊十郎さんは、新たな演技を取り入れようと試みている。歌舞伎の立廻りは、長年、多くの役者たちによって、様々な苦心と工夫が凝らされてきた。その努力の集積が華麗な舞台を創りあげたのである。さらに、下座音楽の演奏とあわせた立廻りの稽古を行う総ざらい、そして公演直前の舞台では、タテ師と舞台美術、大道具の担当者による念入りの道具調べと、準備が進んでいく。こうして、通し狂言『義経千本桜』の舞台が創りあげられる。この中から、「大物浦の場」「小金吾討死の場」など、見どころとなる立廻りの場面を中心に、じっくりと鑑賞していく。